

系統豚「しもふりレッド」母豚の夏季育成率向上技術

畜産試験場

1 取り上げた理由

平成14年度に完成したデュロック種系系統豚「しもふりレッド」の普及を進めているが、雄系であるしもふりレッドは雌系のランドレースや交雑種のLWに比べ、泌乳量が少ないなど哺育能力が低く、特に7月から9月の夏季暑熱時に育成率低下が起こり易い。そこで、これまでの飼養管理方法の見直しを行うとともに、母豚への飼料添加を行い育成率向上を認めたので、参考資料とする。

2 参考資料

- 1) 分娩から離乳までの飼養管理を見直すことで、子豚の圧死や衰弱死が著しく減少し育成率が50.0%から71.6%に向上する(表1)。
- 2) 飼養管理見直し後の夏季妊娠母豚にシルクアミノ酸を0.5%飼料に添加すると、育成率が対照区の71.3%に比べ飼料添加区で93.4%とさらに向上する(表2)。

3 利活用の留意点

- 1) 本資料は、系統豚「しもふりレッド」の飼養管理及びマニュアルに活用する。
- 2) 他品種の夏季に育成率が低下する母豚の飼養管理にも利用可能である。
- 3) 泌乳を考慮してアミノ酸製品のシルクアミノ酸を用いたが、畜産用の汎用製品ではなくコストもかかるので、他のアミノ酸製品での検討も必要である。

(問い合わせ先：畜産試験場種豚家きん部 電話0229-723101)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

未利用資源を利用した豚の抗病性機能向上による高品質豚肉生産技術の確立

(平成14～17年度)

抗菌性飼料添加物に頼らない高品質豚肉生産技術の確立(平成18年度～)

2) 参考データ

表1 飼養管理見直し^{注)}前後の7～9月の育成成績

	年度	腹数	生産頭数	離乳頭数	育成率	平均最高気温	備考
	(年)	(腹)	(頭)	(頭)	(%)	()	
見直し前	H15	19	182	91	50.0 ^b	23.6	
見直し後	H18	17	134	96	71.6 ^a	25.9	飼料添加豚含まず

は、異符号間で有意差有り(P<0.05)

注) 見直しの内容

分娩介助, 代用乳の利用, 新生子豚への鉄剤に加えてビタミン剤の補給, 授乳期間の短縮(4週齢まで 3週齢まで), 分娩柵の設置延長(分娩後1週目まで 離乳まで)

表2 母豚へのアミノ酸飼料添加の効果^{注)}

	飼料添加区	対照区
母豚の産次(産)	4.0±3.3	4.0±3.8
妊娠期間(日)	113.4±0.7	113.6±0.7
総産子数(頭)	8.9±2.3	8.4±2.1
生産子数(頭)	8.0±2.5	8.4±2.1
離乳頭数(頭)	7.4±2.1	6.0±3.6
育成率(%)	93.4±8.6 ^a	71.3±32.8 ^b
一腹子豚総体重(kg)	生時	11.7±2.7
	1週齢	18.0±4.1
	3週齢	32.9±6.5
		12.2±3.0
		14.7±8.4
		25.6±16.1

は、異符号間で有意差有り(P<0.05)

注) 飼養管理見直し後の平成18年7～9月分娩の母豚を対象に実施した成績である。

3) 発表論文等

a) その他

a) 第85回日本養豚学会大会講演要旨, p30, 2006

b) 平成18年度宮城県家畜保健衛生業績発表会全文原稿集

c) 第87回日本養豚学会大会講演要旨, p8, 2007